

# 会報

日本福音ルーテル東京池袋教会

〒171-0014 豊島区池袋3-7-1

☎03-3984-3853

[ikejelc@a.toshima.ne.jp](mailto:ikejelc@a.toshima.ne.jp)

<http://www.jelc-ikebukuro.org/>

2018-1号

発行日 2018年3月25日

## サンテグジュベリ『人間の土地』



牧師・青田 勇

フランスの作家サンテグジュベリの作品で「人間の土地」という本があります。これは、第二次大戦前の、1939年にフランスで出版された随筆集です。フランス語の原題「Terre des hommes」で、著者が書き残した戯画等を考え合わせると、直訳すれば「人間達の地球」という意味であると言われてしています。

サンテグジュベリが1926年以降の郵便飛行士としての経験を綴ったものです。飛行士としての15年間の経験を基に巧みな筆致で語り、そこには極限状態での僚友との友情や、人間らしい生き方とは何か、が主題となっています。

この「人間の土地」で、サンテグジュベリは、人間が生きることにとって最も重要なことは何であるのかを語っています。

人間にとって、最も大事なこと、それは「愛」です。それをサンテグジュベリはこのような言葉で語っています。

「ぼくら以外のところであって、しかもぼくらのあいだに共通のある目的によって、

兄弟ちと結ばれるとき、ぼくらははじめて楽に息がつける。また経験はぼくらに教えてくれる。愛するということは、おたがいに顔を見あうことではなくて、いっしょに同じ方向を見ることだと。ひと束の薪束の中で、いっしょに結ばれないかぎり、僚友はなく、同じ峰を目ざして到り着かないかぎり、僚友はないわけだ。もしそうでなかったとしたら、現代のような万事に都合のよい世紀にあつて、どうしてぼくらが、砂漠の中で、最後に残ったわずかばかりな食糧を分ちあうことにあれほど深い喜びを感じただろうか？ この事実に対する、社会学者の臆測などに、なんの価値があろう。ぼくらの仲間のうちで、サハラ砂漠におけるあの救援作業の大きな喜びを知った者にとっては、他の喜びはすべてかりそめとしか見えはしない。」

サンテグジュペリはここではっきりと言っています、愛とは「おたがいに顔を見あうことではなくて、いっしょに同じ方向を見ることだ」と。共に、将来を、先に向つて、同じ方向を見つめ、それに向つて一緒に歩むこと、それが愛であるのです。

さらに、サンテグジュペリは生きている人間にとって、最高の贅沢は、過去の友、仲間、戦士、僚友、同信の友の存在であると言っています。

「死んだ仲間に代わりうるものはなにもない。古い友人をすぐ作り出すわけにはいかない。多くの共通の思い出とともに生きた多くの困難な時間、多くの仲たがひ、和解、感動、これらの宝物に及ぶものはなにも無い。この種の友情は二度と建てなおすことはできない。柏の苗木を植えて、すぐにその葉隠に憩おうとしてもできない相談だ。人生とはそういうものだ。わたしたちはまず自分を豊かにした。わたしたちは何年もかかって木を植えた。だが、時というものがその仕事をこわし、木を切り倒す年がやってくる。僚友たちが、ひとりまたひとり樹陰を引き上げてゆく。それ以後、わたしたちの服喪には、老いつつあるというひそかな愁いがまじり合うのだ。真の贅沢はひとつだけしかない。それは人間関係という贅沢だ。」

このような言葉でサンテグジュペリは人間の豊かさを語っています。人間にとっての一番の贅沢は、過去の友を思い出すことにあると言うのです。

このサンテグジュペリから、私たちは自分の思い出の中に神において永遠に続く追憶を残してくれる者、愛する友、信仰の友、仲間との心結び合う人間関係こそが人間にとっての唯一の素晴らしさであると言うことを教えられます。

いかなる高価な物も与えることのできない、永続する価値あるもの、それは過去の思い出であります。しかも、本当の仲間との思い出です。そのように友との素晴らしい思い出が神において、教会に築かれているならば、それはキリストにおいて生きる人間をより豊かにし、しかも教会の信仰の群れも神において相応しい姿となっていくでしょう。

## 古く、小さな祭壇

前田貞一(引退牧師)

私が池袋在任当時、現在の会堂の後方二階部通路奥、フィンランド室に、古く、小さい「祭壇」が置かれていた。故牛丸省吾郎牧師から、「例の裁判事件の時、ルーテル教会を守ってくれた『祭壇』だ」と聞かされた。

多くの教友兄姉は聞き及んでおられるかもしれないが、私が牛丸牧師から聞き及び、記憶に残ることを今回、寄稿しよう。

戦後、池袋教会は、他の諸教会も同様であったが、戦時下の特高（戦時下の「特別高等警察」の略称）の監視から解放され、戦後のキリスト教大ブーム期を迎えた。新しい教会員と共に、地方から東京への移住者の多い時期、池袋教会も一挙にその規模は増大した。戦時下の統合体制として組織された「日本基督教団」としての（ルター派系）池袋教会が教団離脱を掲げ「福音ルーテル教会再建」を謳っても、会員大多数の共鳴を得ることは当然困難なことであったろう。大多数は「日本基督教団」の新生児だからである。そうした中で、溝口牧師が池袋のルーテル教会を母教会とする13名の信徒の意向を受けて、教団離脱を承服し、紛糾の種となったとしても不思議はない。裁判の結果（判決文等を私自身検分した者ではないが）、「教会にとって最も神聖である祭壇について（注：裁判官の判断）、伝統を継承する古い祭壇を保持・使用している教会に、不動産（土地・建物）が帰属するのが妥当」と採決されたと聞く。会堂の使用は「教団教会」が占拠しており、少数の旧ルター派の会衆は、会堂裏手にある当時の宣教師館（後の牧師館）で礼拝を回復した。そこで使用した祭壇が、かつて池袋教会が1931（昭和6）年6月に建築した旧会堂の聖壇に設置されていた「祭壇」である。

そう云う経緯から思うならば、会堂二階の廊下の奥に、居場所もなく、ひっそりとたたずむあの「古く、小さな祭壇」は、現在の会堂の左陣に、聖餐の補助メンサ（聖卓）として（注：「メンサ（聖卓）」には本来は基準がある。それは「天板一枚の石板・四本脚又は二枚側板脚」の基準には適合しないものの、あの旧祭壇を「パン・葡萄酒・清布」の補助置き台として、「補助メンサ」替わりに活用の路を開くことはできるかもしれない。

歴史を担う祭壇・メンサを持つ 池袋教会に祝福あれ！

## 教会の主な集会・行事予定

- ◆ 3月18日(日)礼拝後、婦人会
- ◆ 3月20日(火)午前11時、青田勇牧師感謝会(婦人会主催)
- ◆ 3月21日(水)9時半、東教区総会
- ◆ 3月25日(日)礼拝後、青田勇牧師感謝会
- ◆ 3月30日(金)午後2時、受苦日礼拝
- ◆ 4月1日(日)イースター礼拝、礼拝後、新任・三浦知夫牧師歓迎会
- ◆ 4月8日(日)礼拝後、午後2時半、墓前礼拝・多磨霊園
- ◆ 4月15日(日)礼拝後、定例役員会